

なら歳時記



県で一番面積が小さな三宅町では近年、観光客が少しずつ増えているそうだ。もうすぐバレンタインデー。「新たなデートコースを発掘したい」と、静かな人気が続く町を歩いてみた。

近鉄大和西大寺駅から各駅停車の普通電車で約20分。九つ目の石見駅で降りると三宅町だ。案内してくれたのは三宅ボランティアガイドの会の寺田良清さん(67)。無料で一人でも案内してくれる親切な会だ。町の財政状況が芳しくなかった10年ほど前、町をPRしようという機運が生まれたのだという。持ち直した今でも、おもてなし精神が続くのは「好きやから」。一緒に説明に来てくれた町地域活性化課の勝浦啓雄さん



グローブキュービーを見つめる女の子

(66)が「有名な観光地には行き戻りくしたという方が東京からも来られます。『穴場に行ってきた』と人に言えるのもうれいみたいですね」と小さな町の人気の秘密を教えてください。

早速、町を歩き始めると「太子道」という看板が目をつかした。その昔、聖徳太子が斑鳩から飛鳥へ通った道だという。町には、社殿がいくつも太子道の方を向いている杵築という名前の神社が三つある。町北部の屏風地区にある神社の拝殿には、氏子が幕末に奉納したと伝わる「おかげ踊り絵馬」



万葉ゆかり 恋人の聖地

(県指定有形民俗文化財)が掛かっている。頼み込んで自治会長さんから鍵を借り、中に入って絵馬を見ることのできた。「太神宮」ののぼりを先頭に、そろいの黒い

着物で踊る人が描かれている。当時の人たちの伊勢参りの喜びが伝わってくるようだ。

町には歴史のある見どころのほか、新しい観光名所もある。太子道沿いと中央公園にあるその名も

三宅町
電車は近鉄橿原線石見駅や近鉄田原本線但馬駅。車で
は京奈和自動車道三宅インターからアクセスできる。ポ
ランティアガイドの申し込みは町役場地域活性化課(0745・44
・2001、内線241、242)。

「恋人の聖地」。ハートがついた木製のソファや、2人で鳴らせる鐘などがある。万葉集に町花「アザサ(アサザ)」が出てくる愛の歌があることにちなんだスポットだという。「ここにデートに誘ったら、渋いけど好感度がアップしそう」と期待が膨らむ。

今年、生誕800年を迎える鎌

倉時代の僧・忍性が生まれた土地でもある。石碑を眺めていると、式下中3年の東鮎奈さん(15)が通りかかった。「神社は石や植物も面白い。花や木に水をあげている人がいるので元氣です」と町の好きなどころを話してくれた。

最後はお土産だ。三宅町は野球のクラブやスパイクなど、スポーツ用品の生産が盛んな土地。「グローブキュービー」というストラップの不思議な愛らしさにひかれた。発案者のクラブ製造「吉川清商店」の吉川尚代さん(63)は「可愛くて物産も分かるし、いいですよ」と話す。

約4平方キロの小さな町で、田畑に点在する古墳も眺めながら、観光スポットを歩いた半日。たくさのんの情報に目移りする日常から離れ、のんびりした気持ちを取り戻せた。

【藤本柳子】